

第2回 鶴川西地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

開催日時	2022年3月28日(月) 9:28~11:24	
開催場所	町田市立鶴川第四小学校 ランチルーム	
出席者 (敬称略)	委員	豊田委員、杉山委員、平城委員、楨田委員、大堀委員、鶴田委員(代理出席:新井氏)、北川委員、竹村委員、田中委員、大隅委員、仲村委員、浅沼委員、◎鯉坂委員、○悴田委員(◎会長 ○副会長)
	事務局	田中教育総務課長、小宮教育総務課担当課長、平川施設課長、田村学務課長、押切保健給食課長、林教育センター所長、遠藤指導課担当課長、菅野施設課担当係長、根本学務課管理担当係長、都筑学務課学籍担当係長 (教育総務課総務係) 岡崎担当係長、京増主任、竹村主任 (委託業者) 株式会社梓設計 鈴木、古田、藤田、今井
傍聴者	0名	

議事内容(敬称略)

1 第1回基本計画検討会の振り返り

教育総務課 (資料1-1~2説明)

2 新たな学校の通学路の安全対策及び通学の負担軽減に関する基本情報

学務課 (資料2-1~4説明)

資料2-2~4は非公開資料

委員 文部科学省が基準として示している通学距離、小学校4キロメートル以上、中学校6キロメートル以上の距離から通学されている児童、生徒は市内でどの程度いるのか。

学務課 町田市内に文部科学省の基準を超える児童・生徒はいない。

委員 資料2-1の通学費補助金の実績のところだが、鶴川第四小学校の児童にも通学費補助金が出ていたのでは。

学務課 資料に記載されているのは2021年度の実績のため、2021年度には鶴川第四小学校の児童で通学費補助金の制度を使っている児童はいないということ。過去に通学費補助金制度を使った児童はいた。

3 新たな学校の運用体制について

教育総務課 (資料3説明)

新たな学校の運用体制について、ソフト面(運用面)を変えていくことを考えている。教員が教育活動の根幹を担うことに変わりない。変わるのは必ずしも教員が担う必要がない部分に民間の力を導入することで、教員が教育活動に専念することができる環境をつくり出すとともに、学校施設を地域活動の拠点として使いやすくし

たい、今あるコミュニティスクールの取組みに民間の力を加えることで、学校でできることの幅を広げていきたいと考えている。

★2では新たな学校で目指すことということで、1点目は、みんながつどう地域拠点にする。新たな学校では、さらなる学びや、地域の面白さを活かすような場所にしていくことを目指している。

2点目は、教員が教育活動に専念できる環境にしていく。教職員でなくても担える業務、例えば、施設開放や、建物の維持管理の仕事を教職員から切り離すことを考えている。これらのことを民間の活力を導入することで実現をしていくことを目指している。

★3では運用体制模式図を示している。既存のコミュニティスクールの仕組みに民間等の活力を加えていくことを考えている。このことで、例えば、今ボランティアコーディネーターが学校の活動を支援するような支援者を集めて探す活動を民間がサポートすることでより幅が広がるようなこと、あるいは地域開放区画の利用を促進するような事業を展開すること、そのような様々なことができるようになることで幅が広がるようなことができればよいと考えている。

★5について、「みんながつどう地域拠点にする」ために導入したいことということで、課外活動や授業でできることの幅を広げていくこと、例えば、授業で習ったことを実践する理科や算数の特別講座であったり、まちとも連携した遊びや学び、プールの授業でインストラクターが指導するというものであったり、中学校であれば、外部指導員を導入して部活動の種目を増やしたり、専門コーチによる指導をすることができることが考えられる。

さらには、教育関係・スポーツ関係事業者などによる放課後に学校施設を活用して、子どもたちの居場所づくりと併せて、学習塾や習い事ができるようにする、こうした可能性があるのではないかと考えている。

また、地域の方々が学校に集まるような事業を展開し、学校を利用してもらおう。そして、地域の活動に子どもたちを取り込んだり、子どもたちの活動の幅を広げたり、地域の人同士のつながりが生まれたりすることを実現したいと考えている。

このようなことに関しては、現在民間活力導入可能性調査を実施しており、実現の可能性を探っている。

★6ではこのような取組をしていくに当たって、教員の負担を増やすことがないよう、民間が学校施設の維持管理・運営に関わる範囲を時間帯によって変えようと考えている。具体的には、授業がある時間帯とそうでない時間帯で施設のセキュリティラインを変えることによって、教育活動を優先しながらも、地域拠点として学校施設を活用できる幅を広げようと考えている。

委員

町田市と民間事業者と契約をするということだが、費用はどのくらいかかるのか。

また、★2に記載されている「建物の維持管理」や「地域開放」については、地域の人やシルバー人材センターなどが関わり、既に実施している部分があるが、現状、先生の負担は減っているのか。これからもっと充実させていくということだが、学

校側として不安はないのかを聞きたい。

教育総務課

まず1点目、どのくらいの費用がかかるかについては、まずどのような業務範囲を任せられるのかを含めた調査をしているため、どのくらい費用がかかるかはまだ決まっていない。これから調査をしていき、費用対効果も含め、民間事業者にどのような業務を担ってもらうかを決めていく。

2点目は、早朝や夜間のカギの開け閉めなどをシルバー人材センターに協力いただき、先生の負担は減っている。また、現在の学校開放制度で、学校ごとに利用団体や学校の先生で組織する学校開放委員会があり、休日や放課後に学校の開放の使い方、あるいはそのスケジュールを決めて運用している。管理の面を民間事業者が管理することにより、開放団体との調整業務も担うことで、先生の負担が軽減できると想定している。

実際の運用面等どうするか検討をしていくが、少なくとも先生の負担を軽減し、管理を民間事業者にし、先生の負担を減らすことを目指す。

会長

具体的には、例えば近隣の保育園や幼稚園が学校の校庭で運動会をするときに放送機器の使い方を教えるなどのため、副校長が休日出勤し対応している。そのようなことを学校の先生方じゃなくて、民間事業者にできたらいいという配慮だと思う。

教育総務課

その通り。

委員

学校の先生方の立場からいくと、地域との連携が進むのは結構だが、子ども、生徒が地域活動に参加することによって、先生の負担は解消できないと思う。例えば参加した子どもがけがをした、事故があった、いじめられた、あるいはそれが原因で不登校が生じるとか、考えてみると、いろいろ複雑なことが予想される。地域との連携活動を展開していくときに、責任の所在を明確にしないと、先生方の精神的な負担が非常に重いと思う。

一つの例で言うと、高校の場合で、全国大会に出場するかしないかによって、生徒が集まるかどうか、意欲が向上するかどうかが変わってくる。そのため外部の指導員に協力してもらっているのが実態だが、教育委員会がどのように支援するか、それは非常に重要だと思う。

自分の高校の吹奏楽部の経験では、東京都で初めて公立学校が全校大会に出ることがあった。その時に都の教育委員会から財政的な面で非常に大きな補助が出たことがある。教育委員会として支援等を考えて欲しい。

教育総務課

今、明確に答えられないが、各学校が個々に特色を出せるよう工夫しながら、考えていきたいと思う。

4 鶴川西地区の新たな学校の施設整備について

委託業者

(資料4-1説明)

委員

「擁壁や崖の改修など大がかりな造成はしない」とあるが、鶴川第四小学校の正門前の道路に歩道がない。下校時、その道路脇に親が車を止めてお迎えをしている。その車を避けるため、子どもが道路の真ん中に出ており危ないと思っている。

正門前の道路沿いの斜面を1メートル程度奥へ引っ込め、歩道を造ることができると解決すると思うが、「大がかりな造成」に該当するかどうか、考えて欲しい。

委員

はみ出さないように学校も指導をしているし、車では送り迎えはしないというふうに、お知らせがあるがルールが正しく守られていないと感じる。

委員

習い事などに行く児童が多いのか、送迎する家庭は多い。学童の迎えはたくさん正門の脇のところまで来ている。そのことを踏まえると歩道が必要だと思うので、大がかりな造成に当たるかどうか。

教育総務課

歩道を造る、造らないということは今ここでは答えられないが、意見として承る。

委員

正門の位置は今のところが基準になるのか。校舎が替わることで、その位置も変えるようなことを考えてもいいのか。

教育総務課

今の位置に縛られることはない。より良くなることを考えていく。

会長

校舎を建てるに当たり、例えば学年の畑の位置等が気になるが、図面上では畑がどこにあるかというのが分からない。それを含めた位置を検討すると、どういう動線が子どもたちにとって安全な動線になるのかというのが考えられるが、建物が建ってから畑はつくるのか、その辺はどうなのか。

施設課

まずは新たな学校ということで、この限られた敷地の中で、子どもたち、また地域の方が一番使いやすい形で建物と校庭の配置を考えなければいけないと思っている。先ほど学童の送り迎えの話もあったが、学童保育の位置や、送迎の車の位置等、駐車場も含めた形で整備していく。そのような基本的な配置をした後に、畑や校内の活動でどういうふうになれば便利になるのか、そういう視点でいろいろ詰めていく。

委員

過去に鶴川第四小学校、真光寺中学校で保護者と教職員の会の会長として5年間の活動した経験がある。その中で、学校の問題でよくなかったと思っている事が2つある。

1つは、鶴川第四小学校の空き教室を改修して高齢者施設をつくったこと。児童と利用する高齢者が交流するという教育的に利用する目的があった。しかし実際は当初予想したほど交流は無く、教育効果が得られなかったと感じている。

もう一つは、鶴川中学校を教科教室型で整備したこと。公立中学校という定員を決めることができない形態で教科教室型にすると運営が難しい問題が残ってしまった。

現実的な、具体的な構想を練る必要がある。この2つのことを念頭に置き、新しい小学校、中学校をつくっていく考えを進めてほしい。

委員

デイサービスとの交流の件について、今はコロナの関係で直接交わるような交流はできていない。この2年間はお手紙の交流であるとか、作品展の一面でデイサービスの利用者さんに作品を見ていただくとか、そういう形で交流している。ただ、学校としては、デイサービスがある学校なので、何とか交流できないか計画を立てていたができていない状況。積極的にそれを活動に利用できないか考える必要があると思う。

委託業者

(資料4-2説明)

〔 ワークショップ 〕

Aグループ

校庭の砂ぼこり、土ぼこりの近隣地域への影響を考えた校舎の配置がいいという意見、教室の日照の関係も考えるとAとBでは全く条件が変わるため、その砂の被害と日当たりの関係をどう考えるか。それを解消する一つの方法として、もう校庭を人工芝にするという意見があった。

それから、B案のように鶴の台と校庭を一体化するような配置がいいという意見があった。A案のように死角になる部分が多くなると、管理上、安全面も、使いにくいという意見があった。

それから、正門の位置についてもたくさん意見が出た。将来的に新しい校舎では鶴川第三小学校側から通う児童が増えるため、今の正門の位置だと遠い。そのため、現在閉めている南門に門があれば、児童が通いやすいだろう。ただ、これも学校の立場からすると、多くの出入口があるとセキュリティー問題が生じる。そこの兼ね合いもある。

それから、市から地域の方が利用する提案があるため、地域利用の施設と学校が主に使う施設、これがうまく分かれているような動線の配置が必要。

あと、地域が広がるため車で送り迎え等も今後は増えることが予想される。児童との関係、道路を拡張すること、それから駐車場の広さであったり位置、その辺も検討すべきと意見が出た。

Bグループ

校舎によって鶴の台に死角が出ないということを見ると、B案は開放感があり、グラウンドが広い、特に1周200メートルのトラックがある。開放感のあるB案はいい。

そして、4階はプールだけにして、もし災害時のときに児童が4階から避難をすることが無いよう、普通教室は3階に抑えたらいいという意見が出た。

セキュリティーの面を考えたときに、校庭から校舎まで入る間に不審者が見やすいという部分もあるが、今の出入口をロックして、必ず顔を見てから施錠を開けるという形式にすれば、B案もセキュリティーが高くなるという意見が出た。

また、車使用のことがあるので、道路のことであるとか正門の位置などを考える必要がある。

また、階段が多く、1年生はランドセルの中にChromebookなどを入れて階段を通ることはとても大変だと思う。荷物のことを含めて、ただ単に通学路云々だけではなくて、学校の中でもっと負担が少なく通学ができるようなことも考えてほしいという意見があった。

それから、校庭の土、水はけがいいとか、やっぱり校庭の土のことについても少し検討してほしいという意見があった。

5 第3回基本計画開催概要

教育総務課 2022年4月25日（月）9時30分～鶴川第三小学校を予定

6 閉会
会長

（閉会の挨拶）